

1 自己評価書

教育目標	笑顔でいっぱい取り組む三間の子を育てる
基本方針	体験・感動・発見・交流 ささまざまな人との「かかわり」と「つながり」
本年度重点目標	1 社会総がかりで取り組む教育の推進 2 安全・安心な教育環境の整備 3 確かな学力を育てる 4 互いの人権を尊重する教育の推進と児童の健全育成 5 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせた力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B B	B
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B	B
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	B
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B	B
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C C	C
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的にを行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B D B	C
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
	(成果と課題)					
	<p>1 週間の学習計画を立て、宿題や家庭学習を自分で決めて実施するという取り組みを行った。7割の児童が計画通り学習を進めることができるようになり、家庭での余力が生まれた。2学期後半からは、積極的に自学に取り組めるように様々な工夫を行った。子どもたちが自分から興味を持ったことや授業で学習したことを家庭で学習する姿が見られるようになった。課題としては、勉強が苦手、好きではない児童が計画を立てたり自分から学習に取り組んだりできていないことである。</p> <p>毎日iPadを活用し、使い方に慣れていく活用ができるようになってきた。すららドリルは使いにくく、活用できていない。</p> <p>「振り返りの観点」を全体で共通理解し、研究授業や各自の授業で取組が見られたので良かった。</p> <p>様々な体験活動ができたので、机上では学べないことが学べてとても良かった。</p> <p>学力向上(自分自身)の取組が、もう少し日々の取組に反映されるように工夫すればよかったと反省している。</p> <p>児童の反応や学習状況を見て、授業改善に努めることができた。</p> <p>授業の始めにはめあて、終わりにはまとめ、振り返りを行うことで授業のリズムができた。そうすることで子どもが主体的に授業に取り組んでいたと思う。</p> <p>個に応じて能力が異なり、人数も多く、個別最適な学びを推進することが難しかった。</p> <p>ねらいを基に、振り返りまでの流れが学校全体でも定着しつつある。振り返りについては、「みぬまのさと」という観点ができたことで、子どもたちにも定着している。校内研究授業があることは、先生方にとっての学びが多いものとなった。</p>					
	(改善策等)					
	<p>自分から学習に取り組めない児童に対しては、授業中に問題集や計算スキルに取り組み、やり残しを作らないようにする。そのためには、教師自身の授業力を向上させ、より分かりやすく児童に伝えていく必要がある。</p> <p>力が付いていたeライブラリに戻してほしい。</p> <p>EILISの「みきゃん通帳」をうまく活用して、週末読書や長期休暇の読書を活性化させられたら良いと思う。</p> <p>ICT機器の活用や読書活動の充実に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>個に応じて使用した学習教材や方策を学校で収集しておき、他学年の学びについて把握できるようにする。</p> <p>iPadの使用の在り方を検討したい。一部の児童にとっては、ゲームを無償で与えられている状況にあるように感じる。iPadの使い方にも慣れ、いろんなアプリも入っており、教員も管理が難しい状況がある。</p>					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B C	B
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B C	B
			関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B C
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的に行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	B B	B
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	B B	
	<p>(成果と課題)</p> <p>子どもたちが安心して、自分を出せる学級づくりに取り組んできた。その成果として、昨年末、不登校傾向にあった児童が毎日笑顔で学級の中で過ごすことができるようになり、勉強が嫌いである気無かった児童も自分から学習に取り組むようになった。課題としては、ふざける児童への対応である。集団の中で周りの反応や雰囲気を考えることをしっかりと教えていきたい。</p> <p>職員会や校内研修会で生徒指導に関する情報交換を行い、共通理解に努めた。問題があったときは、先生方の力を借りて、一緒に聞き取りを行うなど対応することができた。また、相談室を活用してすぐに話を聞くことができ、早期対応につながっているため、相談室は常に使える状態にしておく。</p> <p>SSWやSCがどんな仕事をされているのか、何をお願いできるのかが分からない。</p> <p>ハート何でも相談員さんに保健室への頻回来室など気になる児童について声掛けの依頼をしたり、情報共有を行ったりして、連携を図ることができた。</p> <p>共通理解、共通実践のための具体的な内容が不十分である。</p> <p>管理職、生徒指導主事が学級担任との連携を図り、不登校やいじめを早期解決して長期化させない手立てがとられている。</p>					
	<p>(改善策等)</p> <p>規律をしっかりと身に付けることがポイントだと考える。ふざける児童が出たときに、収束するような声掛けを行っていきたい。また、他学年(下級生)を巻き込む学習活動やイベントを行うことで、高学年としての意識を育てていきたい。</p> <p>挨拶ができていなかったり、トイレの使い方が悪かったりするので、常に声掛けと教師の確認が必要である。</p> <p>来年度からは、和室での着替えをやめて男女別の更衣は3年生からとし、職場体験の中学生などは和室を使用する。</p> <p>SSWの仕事内容などの情報を教職員で共有する必要がある。</p> <p>トイレのスリッパや廊下の歩き方、教室移動の仕方など、今一度児童とともに確認し、徹底していくことが大切である。また、運動場での遊び方の決まりについても教職員で共通理解して指導していく。</p> <p>学校の課題を絞り、具体的な指導ができるように話し合いをしたい。</p> <p>関係機関との連携をどのように図っていけばよいか検討したい。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B B	B
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	B	B
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B	
働き方改革	<p>(成果と課題)</p> <p>よく話を聞いて理解してくれる管理職の先生方のお陰で、職員室でもいつも楽しく仕事をする事ができた。困ったときや忙しい時には担任一人に抱えさせず、しっかりとチームでフォローする雰囲気ができている。そうした環境下で、自分も授業プランクの中に運動場のトラック線を引いたり、他学年の授業サポートに入ってみんなの役に立とうと思える行動できるようになった。課題としては、なかなか先を見通して動くことができないことである。</p> <p>時間外勤務が月100時間を超えないように、気を付けた。</p> <p>SSSに頼める業務がはっきりしておらず、遠慮していた。</p> <p>働き方改革は、各自で意識して取り組んでいることと、業務改善の取組で学校全体で取り組んでいることがあり、意識は高まっている。</p> <p>教職員同士が支えあうことができている、よい職場だと感じる。業務改善のために、力を入れることと省略することのバランスや見極めが大事だと思う。</p> <p>困りごとがあったときに、声にすることでたくさんの先生方に助けていただいた。</p> <p>課外体育については、休日の練習も最小限に留めており、改善の方向に向かっていていると思う。放課後の音楽練習は、必要なのだろうか。</p> <p>SSSの活用については、昨年度に比べると、やや頼みにくいのが現状だと思う。</p>				
	<p>(改善策等)</p> <p>先を見通して計画的にできない自分の課題を改善するために、まずは目の前の仕事をその場で取り掛かるという方法をとっていく。タスクリストを作成し、締め切りが一番近いもの、他の人に迷惑の掛かるものからしていく習慣を付けていきたい。</p> <p>学習発表会は、昨年までの方法で参観日の延長くらいなら負担が少ないが、体育館ですとなるといろいろな準備が必要になり、1年間で一番大変な行事となるので、実施方法等を検討する必要があると思う。</p> <p>SSSに頼める業務やその日に動ける時間を見える化する。</p> <p>子ども会の大きな行事は、担当の先生だけでは大変だということが参加したらよく分かった。全員が必ず1度は参加して手伝うようにし、その分代休を取るなどして1人に負担がいかないようにすればよいと思う。</p> <p>月に1回のノー残業デーをつくり、実践する。</p> <p>宇和島市で取り組んでいる業務改善事業が、教職員の働き方の改善につながるようにしたい。休日の子ども会や自然科学教室などへの参加は、強制できない部分が大きく、ボランティアを呼び掛けるしかないのが現状である。参加者には、ある程度の対価を計画する必要がある。</p>				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	B
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
			・保護者アンケート	B	
・地域アンケート			B		
② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	B		
③ 来客・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	C		
		・地域アンケート	B		
地域との連携	<p>(成果と課題)</p> <p>学校運営協議会への参加できず、ホームページの更新もできなかった。3学期は、学級通信の発行やホームページ更新ができるように、授業計画や校務の効率化を図っていきたい。</p> <p>週に一度、学級通信を出し、児童が伝えられないであろう学校での様子を家庭に知らせることができた。</p> <p>ホームページの更新をよくしていただいているので、私もよく見ているので保護者も楽しみにしていると思う。</p> <p>学校だよりや学級通信の発行によって、学校、学級の様子がよく分かり、保護者も安心しているのではないだろうか。一方で、学級の様子が教員でも全く分からないところもある。保護者はなおさらではないだろうか。</p>				
	<p>(改善策等)</p> <p>「すぐ行動する」を実践し、余剰時間を作り、勤務時間内に様々な情報発信ができるようにする。</p> <p>情報発信の在り方を再検討する。(どのような方法で情報を発信するか、各自で考え、管理職に3学期開始に伝える。)</p>				

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満